

研究協力をお願い

昭和大学藤が丘病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

昼間尿失禁と夜尿症合併例の治療期間の検討

1. 研究の対象および研究対象期間

2017年1月から2026年12月までに昭和大学藤が丘病院を夜尿症と昼間尿失禁で受診した5歳以上のお子さん。

2. 研究目的・方法

・研究目的

昼間尿失禁と夜尿症は合併することがあり、夜尿症単独よりも治りにくいとされています。その場合、一般的に昼間尿失禁から治療することが推奨されています。しかしながら、両者が併存する場合、どのようなお子さんの特性がそれぞれの失禁の治療期間に影響するのか、昼間尿失禁から治療した場合と夜尿症から治療した場合で治癒までに要する治療期間が変わるのか、十分に解明されていません。

そこで今回は、昼間尿失禁と夜尿症のあるお子さんの治療期間に関わる要因や、昼間尿失禁と夜尿症治療の順番による治療期間への影響を解析し、より適切な治療計画を立てることが可能なかを明らかにしていきたいと思います。

・方法

昼間尿失禁と夜尿症が併存しているお子さんを対象に、昼間尿失禁や夜尿症の通常診療として行った問診、質問票を用いた下部尿路症状、神経発達特性の評価、血液・尿検査、尿流測定の結果、それぞれの失禁の治療期間といった既存の情報を収集し統計学的に解析します。

3. 研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2027年3月31日まで。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

・昼間尿失禁、夜尿症の通常診療で初診時に行う問診、質問票を用いた下部尿路症状、神経発達特性の評価、検査の下記項目。

